

評価結果概要表

【評価実施概要】

作成日 平成20年6月16日

事業所番号	2773600487	評価機関名	特定非営利活動法人
法人名	有限会社 采建設工業		近畿マネジメント・サポート・センター
事業所名	グループホーム あやね	所在地	大阪市東住吉区山坂5-5-14-103
所在地	大阪府交野市妙見東5-5-13	評価調査日	平成 20 年 6 月 13 日
	電話 072-810-6610	評価確定日	平成 20 年 6 月 20 日

【情報提供票より】(平成20年5月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数	6 人
職員数	7人 常勤 2人	非常勤	5人 常勤換算 4, 1人

(2) 建物概要

建物の構造	単独 木造 造り
	2階建ての(1階~2階部分)

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	20,000円	
敷金	無			
保証金の有無	有	20万円		
(入居一時金を含む)	償却	退去時	償還 なし	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月当たり	41,000 円		

(4) 利用者の概要(12月22日現在)

利用者人数	6名	男性	0名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	0名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 79才	最低	71才	最高	91才
(5) 協力医療機関名	ひびき眼科・奥田歯科 星田南病院・交野病院・さくらクリニック				

【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

「認知症があっても障害があっても、住み慣れた地域の家庭的な環境の中で、自分らしく生きる」という趣旨の理念の基で、利用者は、職員の暖かい気付き介護を受けながら楽しく暮らしている。また、管理者、計画作成者と職員が同じような世代で「利用者と共に、今日も笑いのある楽しい生活を」続けている

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を見てホームでは、利用者一人ごとの手厚い介護について、ご家族からの各種情報等の記録を集約し、試行を重ねながら改善をして来た。その結果、昨年9月頃より職員一同がこれなら出来るとした方式を、6月まで実施し、結果として、新介護計画書の作成時にも、うまく機能して来ている。内容は分かりやすく見やすく整理されているが、更に、今後も意欲的に取り組む予定。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年の評価に対する取り組みを、昨年6月以降から実施して来たので、今回の自己評価に記載する現状について、職員間で反省と改善案等について話し合っ行われた。その結果として、すぐ近隣にある同一法人のグループホームと同様に、利用者への見守りと気付きを深め、しっかりとした温かさのある介護を行っていることを確認した
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は平成19年3月15日に第1回が開催され、以後、ほぼ2ヶ月毎に7回開催されてきた。当初の主な討議内容は、ホーム側の日常生活の説明であったが、次第に質疑応答が行われ、内容的にも相互の意思疎通がスムーズになって情報の交換もあり、今後の交流に期待をしている
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月の利用者の支払い、出来る方には面会を兼ねてホームに持参して頂くこととしており、その際、職員が対応して日常の生活状況、体調等の説明を行っている。その際に、ご意見等があれば原則として直ぐに対応をしている。尚、ご家族アンケートの回答が少ないのは、日頃のコミュニケーション不足が影響しているのではないかと推測し、更に意思の疎通を深める努力を期待したい
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	昨年開催された運営推進会議により、最近では質疑応答だけでなく、出席の各委員の発言による情報提供が多くなり、ホームとしても有り難い情報が得られるようになった。又、昨秋は、ホームで一日見学会を開催することを広く知らせた結果、約10名が来所され、見学をして頂いた。近隣の方々との交流も徐々に深まり、日常のご挨拶が、自然体で出来るようになったのは好ましい結果である

（ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
1 理念と共有					
	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症があっても、障害があっても住み慣れた地域で、家庭的な環境の中で自分らしく暮らしたいという、希望をかなえるためのホーム」という理念を基にして取り組んでいる		
	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員一同は、リビングに掲げられた理念を、業務の開始に先立って読んでから、取りかかっている		
2 地域との支えあい					
	3	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	2ヶ月に1回の自治会の「ふれあいサロン」に毎回参加している。出席者数は約30名から40名	○	自治会の交流がうまく行われており、今後とも、より良い関係が続けられよう一日見学会の開催も含めて、努力してください
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者を始め管理者、職員一同は介護レベルの向上に絶えず関心を持ち、評価を活かした取り組みを行っている		
	5	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	運営推進会議は平成19年3月15日の第1回開催以来、平成20年3月まで7回開催された。会議は回を重ねる毎に効果的な情報交換が行われ、ホーム運営の改善に役立っている		
	6	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会が平成19年度に発足し、定期的に市の担当との情報交流が行われるようになり、新しい知識が得られるようになった		
4 理念を実践するための体制					
	7	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料の支払いは、出来る方には、持参して頂くこととしており、その際に面談して詳細な説明を行っている		
	8	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	上記の通り、ご家族には毎月来て頂いて、利用者がより良く暮らすための具体的な情報や、ご意見を聞き、介護計画につなげている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9	18	<p>○ 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

5 人材の育成と支援

	10	19	<p>○ 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		引き続き職員の研修については内外の研修計画を作成し、徐々に積み上げていって欲しい
	11	20	<p>○ 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている</p>		昨年より地域の介護施設の協議会が発足して、相互の情報交換や交流が出来るようになった

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12	26	<p>○ 馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		利用者や、ご家族が納得していただき、気軽に相談もして頂けるようにしている。又、ご要望があれば、体験入所もしていただいている
--	----	----	--	--	---

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13	27	<p>○ 本人と共に過ごし、支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		職員は、利用者と同じ目線で共に笑い楽しむようにしている。そして、利用者の出来る能力を、残して頂けるように、簡単な介護の手伝いをして頂くこともある
--	----	----	---	--	--

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

	14	33	<p>○ 思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		一人ひとりの意向を聞きだすようにしている、ご家族から情報を頂くことも心がけている
--	----	----	--	--	--

2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15	36	<p>○ チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		利用者の課題分析から職員の気付き情報等を集約して、カンファレンスを経て新計画を作成するが、その際、必ず、ご家族との話し合いを行っている
--	----	----	---	--	---

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の介護見直しの必要が出た場合は、随時、職員のケア会議を行い、適宜に計画の変更を行っている		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じ利用者、ご家族の支援を出来る範囲内で行っている		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	入所の際に、承諾が頂ければホーム指定の医師を主治医として頂いている。主治医には往診を月2回来て頂いている、また、必要な時には他の診療科の受診も支援している		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の場合には入居時にも説明はしているが、知見の深い医療関係者との連携を図りながら、改めてご家族と、その都度相談し、納得していただいた上で、対応を行っている		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員には今まで生きてこられた先輩として、接するように指導している。言葉がけについては、職員同士でチェックしている		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の生活の流れに沿いながら、一人ひとりの生活の希望に出来るだけ適える様に配慮している		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆が食事を楽しみながら頂くように配慮されている。ミキサー食の方には別途の味付けも行われている。又盛り付け、片付けの出来る方には、協力していただいている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		入浴日の定めはあるが、希望にはできるだけ沿っている

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

	24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		戸締り、掃除、水遣り、買い出し等が出来る方には、誘ってしてもらっている
	25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるよう支援している		買物、外出等については、出きるだけ計画を立てて出かけている

(4) 安心と安全を支える支援

	26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		玄関ドアについては、昼間は開放されていて、建物周囲を自由に行動できるようにしている。石段下の入口門扉はロックされている
	27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		職員による緊急時の避難訓練は行われている。現状から、地域の方々の協力は得られると思うが、各種の配慮は継続していく必要がある

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

	28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		職員も一緒に食事を楽しむ環境作りを常に考えており、特に、必要な水分摂取量はチェックしており、個別の希望に沿ってミキサー食も用意している
--	----	----	--	--	---

2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

	29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		共用のリビングが庭に面しているので明るい雰囲気である、庭の周囲は植木、鉢植、プランター等もあり、四季の彩りで目を楽しませている。たまには、庭で開放感のある食事を楽しんでいる。バックミュージックも適宜、時間、天候等にあわせて利用している
	30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		一人ひとりの居室は、自由に家具類等を持ち込んで楽しんでいるが、昼間は、殆どリビングで過ごしておられる